

※ B L



## 登場人物

鍋島 叶（み）  
要の腹違いの兄  
常ノ葉いすみを  
女の子と思って声をかけ  
付き合い始めた過去がある  
常ノ葉は男子だと気づくが  
家庭の事情で転居して離れる



常ノ葉いすみ（み）  
叶の元カレ？  
最終的には要和  
付き合っている

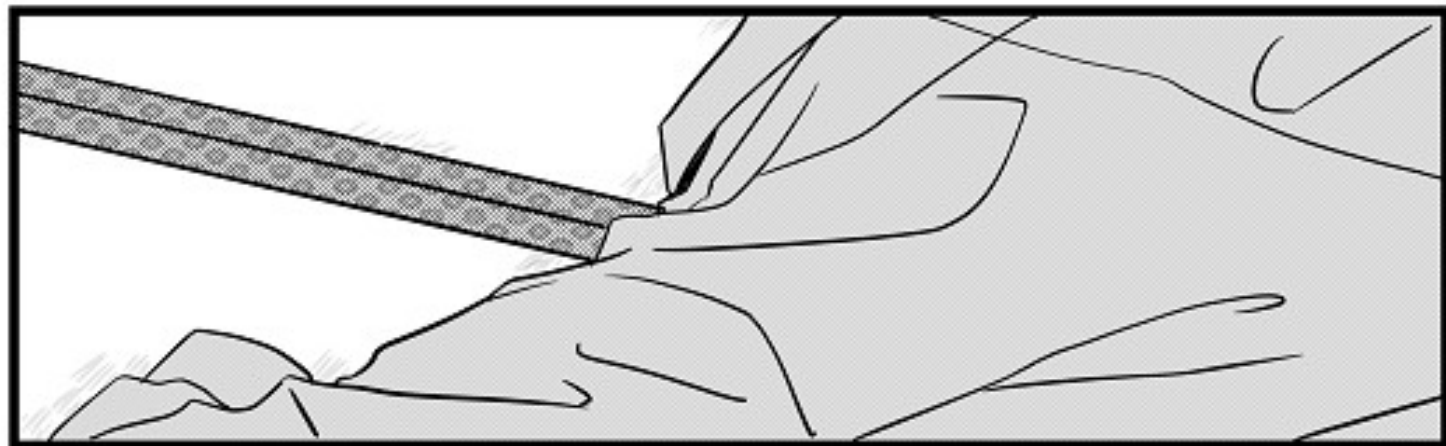


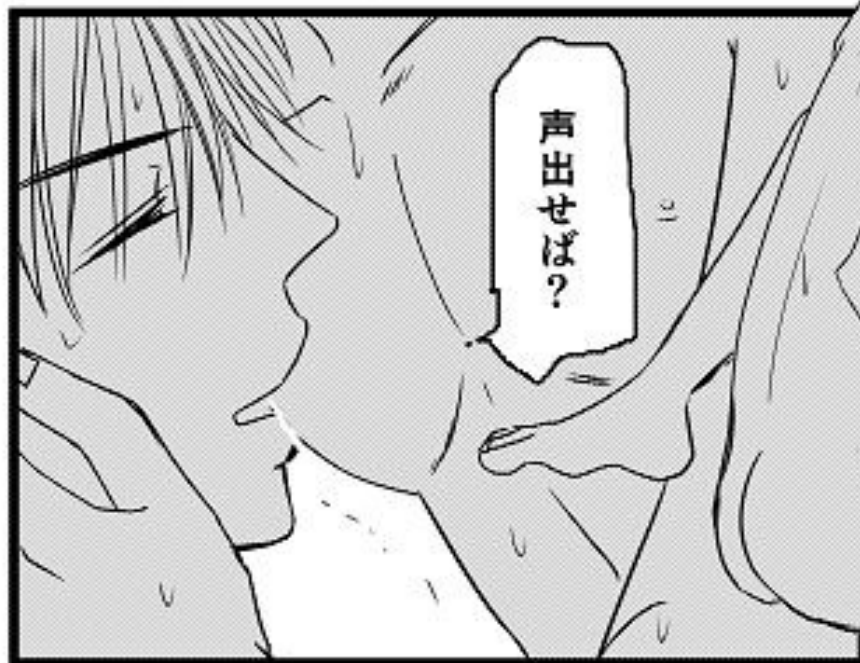
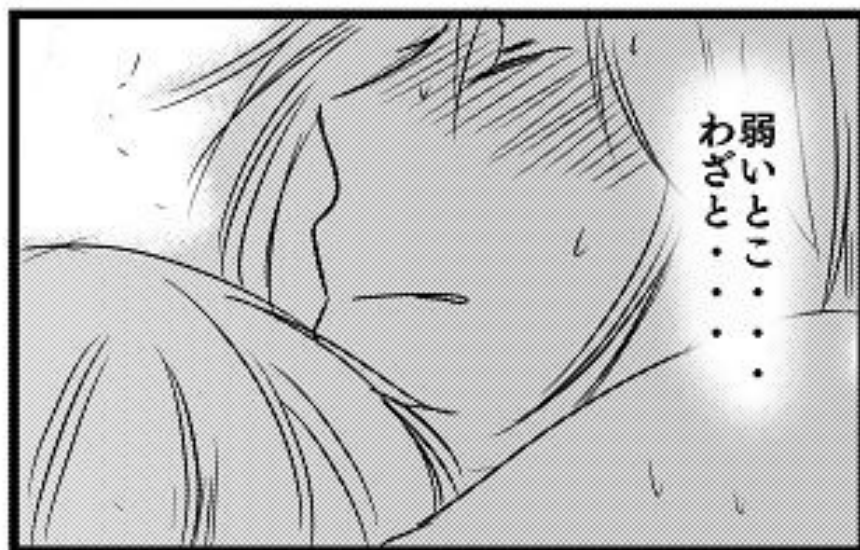
鍋島 要（み）  
三日違いで生まれた葉の弟  
母親が双子という複雑な  
環境に生まれる  
元ブラコンで女子に興味がない

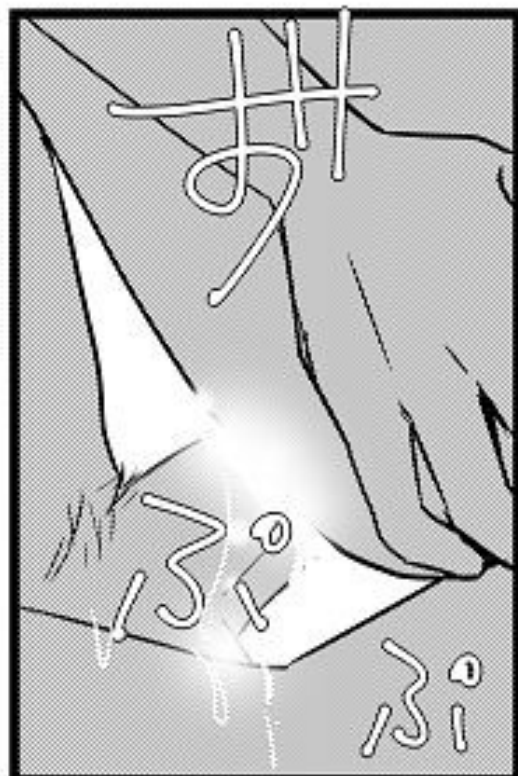


滝沢 哲也（み）  
叶と要の父親の義弟  
  
滝沢家の養子  
要和叶とは十歳違い











叶には・・・

我ながら  
大人気ない

スー  
スー  
ッ  
ッ

※要君

は  
る



爺を説得し  
弟を連れてきてくれて  
感謝してるんだよ？

僕はあなたの  
コマなんだから  
あまり意地悪しないでよ



ンな生意気な  
コマがあるか







哲也さんは  
不器用なだけで

僕を好いて  
くれている

明日早いから  
要といちゃついで  
ないで早く寝ろよ

あなたがつた  
時間とつたん  
でしようが

祖父は相変わらず  
僕と要を道臭みたいに  
扱うけれど

ツンツンツンデレ  
なんだよね  
あの人

貴方はなんだかんだ  
僕と要を  
守ってくれている

感謝しているから  
貴方が飽きるまで  
貴方のものになるよ……

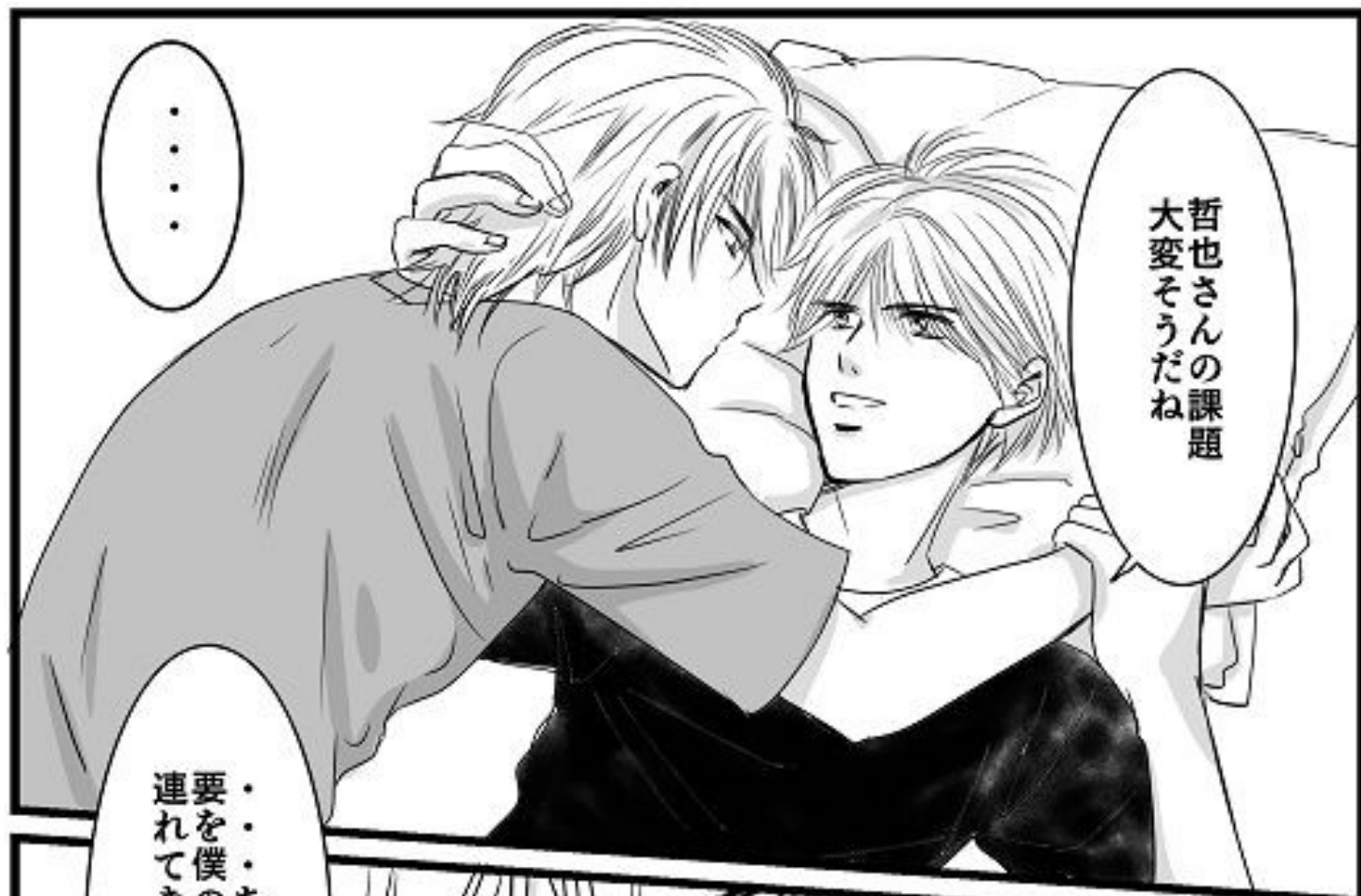
ただ……

約束は守りたい  
君にもう  
一度会わないと









哲也さんの課題  
大変そうだね

・・・あの人は  
要を僕のもとに  
連れてきてくれた



すごく  
感謝しているんだ

だから彼の  
求めるものには  
答えたい・・・







ダメ・・・だろ？

え！  
哲也さんは  
いいの？

要がこの家の  
生活に慣れた頃

しよ

俺はといえば  
要に焼きもちを焼くほど  
叶を愛しく思うようになっていた

また  
ちまちま  
わった  
しい





叶は学業も  
オヤジの要求も  
俺の課題も



要を守るために  
期待以上に  
成果を上げた



また、要も叶を支え  
互いに自由がなく  
僅かな兄弟の時間が  
痛々しいほどに  
仲睦まじかった

俺が少し  
焼きもちを焼かずに  
いられないほどに



気付いたら

俺は叶を  
自覚がないほど  
溺愛していた



要を弟のように  
可愛いがると  
叶も俺を信頼  
するようになった



お前シヨタ  
だったのか！

どおりで  
俺になびかない  
わけだ



クロスぞ？

シヨタじゃ  
ねーし



哲也さん

僕が婚約者の人と  
会食した日は  
必ずしたがるね

……さあな

なあ叶……







僕はあなたを  
兄のように  
思っているけど

哲也さんにとって  
僕は人形だろ？  
出ていけない



オヤジが死んだら  
出ていくのか？



あぁ！

ちよっ！

イッたばっかじゃ...



こんな生意気な  
人形いるか



俺を兄貴という  
ポジションにしたいのか？

お前はやっぱり  
昔の恋人が忘れられず



だって哲也さん  
口では何と言ってても  
優しいでしょ？

兄と思うの  
いけなかった？



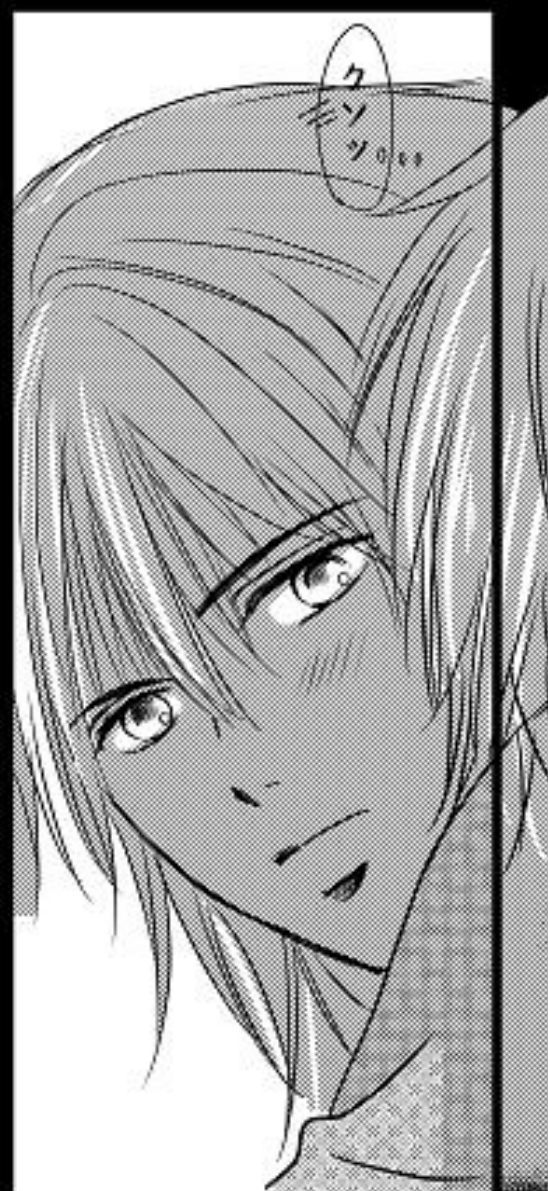
そうじゃなくて



恋人で  
いいだろうが？

え？  
本気で  
言ってたの？







彼とは  
花火を見ながら  
また話そうと  
約束してるんだ

僕が過去の彼に  
会いに行くのを  
許してほしい



……ただ

願わくば一度でいい



会っていいのか？  
相手はお前を女だと  
誤解してるんだろ？



・・・・そうかも  
知れないね  
でも



美しい思い出が  
お互いさまに  
壊れるかもしれないぞ？

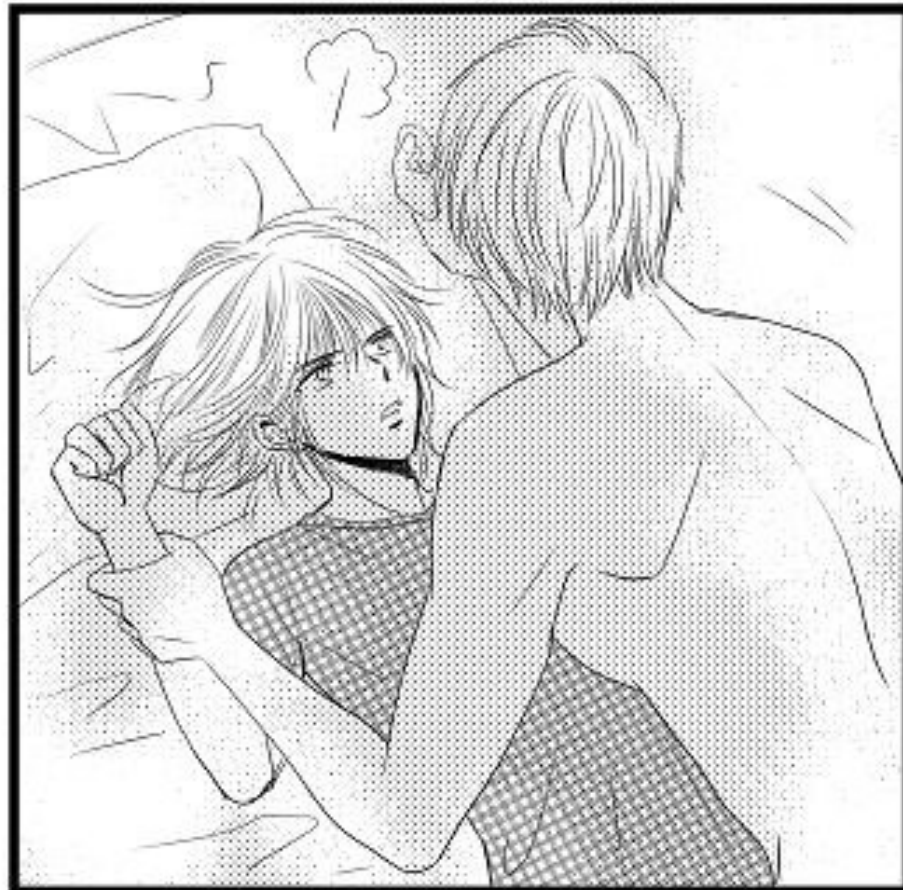


とこちゃん  
と  
過ごした時間は

涙が出るほど  
僕には愛しい  
時間だった

だから  
その時間にきちんと  
別れを告げたい





別れを告げに？

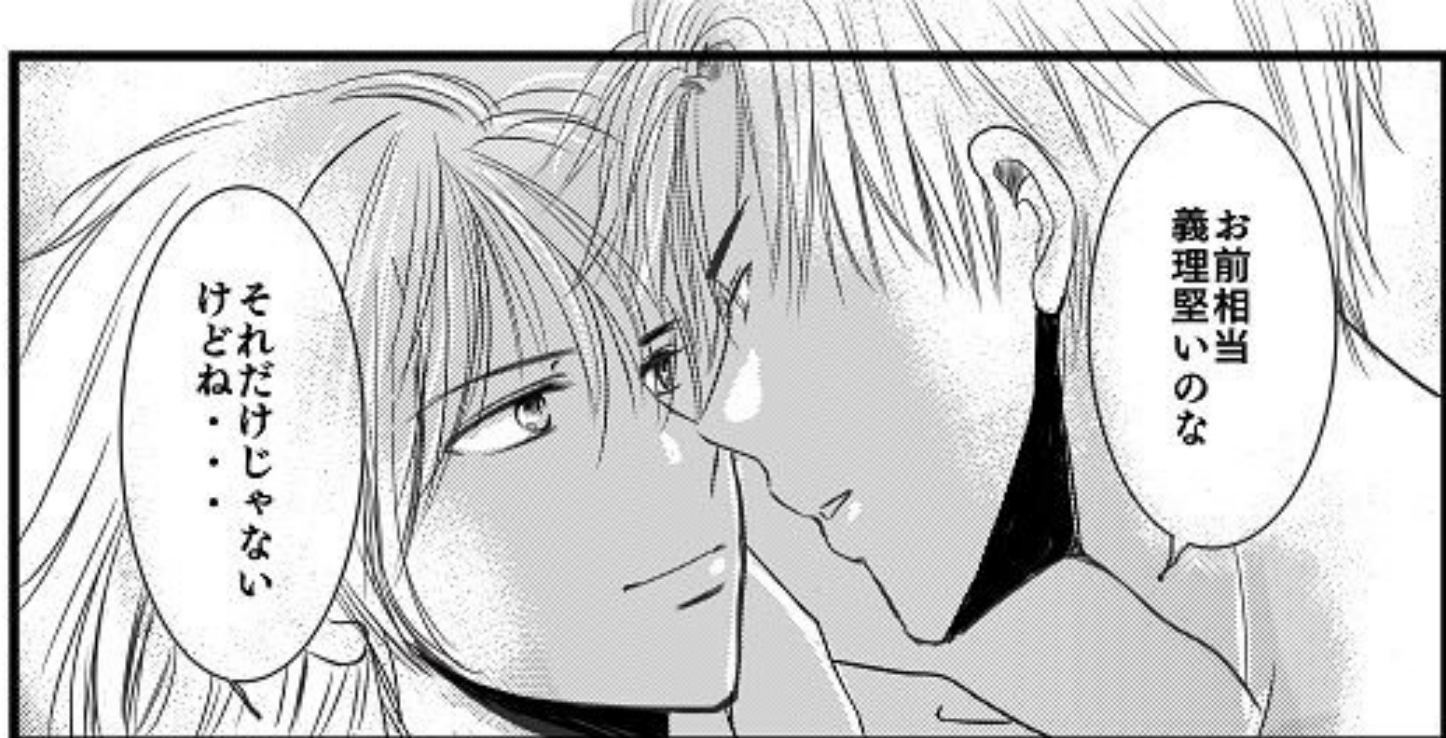
本当は  
その場所に  
戻りたいんだろ？



忘れないけれど  
もう戻れないよ



だって僕は  
あなたのものだから



お前相当  
義理堅いのな

それだけじゃない  
けどね……



要は基本  
他人にクールで

僕が中心で  
生きてる  
感じだったから

要に友達を  
紹介したいって  
思ってたんだ



とこちゃんに  
僕が声をかけたのは  
要のタイプだと  
思ったからなんだ

とこちゃんが  
要の好きな  
ハムスターに似て  
ると思ったなんて  
言えないけど……



でも要は  
興味ないからと  
とこちゃんに  
会わなかった

結局僕の方が  
彼を好きになって  
告白した

父親の死や  
受け入れがたい  
両親の事情が  
発覚した時も

僕はただ彼と  
わずかな時間を  
過ごすだけで

凍り付いた気持ち  
が温かくなったんだ

とこちゃんは  
何も聞かずに  
寄り添ってくれた

だから  
約束を守りたいし  
きちんと別れたい

...









松田さん・・  
哲也の兄貴は  
あのがきどもを  
どうするつもり  
なんスか？

まさか  
本当にオヤジが  
死んだら  
あのがき跡目に  
立てるつもりじゃ・・・



オヤジに  
聞かれたら  
消されんぞ

扱い悪い割には  
オヤジはあのがき兄弟を  
気に入ってる



俺らは哲也さんに  
惚れ込んで  
ここに居るのに



哲也に惚れ込んでるなら  
哲也のやることに  
従っていいんだ

はあ・・・



叶を初めて  
抱いた夜から  
およそ五年・・・

俺は叶だけを  
愛していたのに  
一向に素直になれず

伝えられない分  
叶を食るように  
抱き

叶の願いの  
元カレにも会わせて  
やれなかった

花火

今年も連れて行って  
やれなかったな





叶がこの家に来て五年目  
夏の朝  
家政婦にオヤジを  
起こしてくれと頼まれた

オヤジが珍しく深酒をし  
二人の孫の優秀さを  
周囲に自慢した  
翌朝のことだった

オヤジ!  
遅れんぞ!

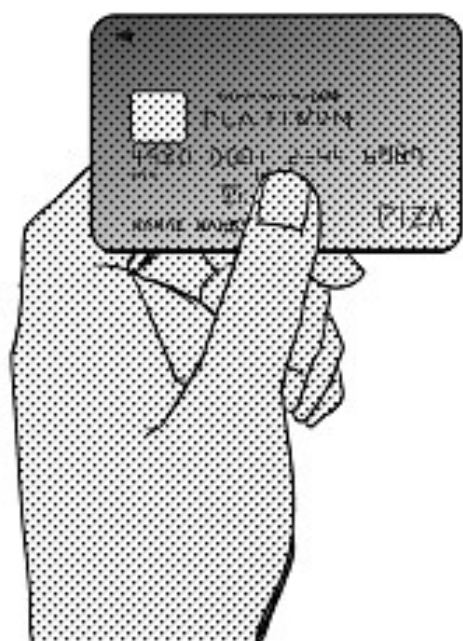
みんな起こすの怖がって  
俺が駆り出された  
じゃねえか







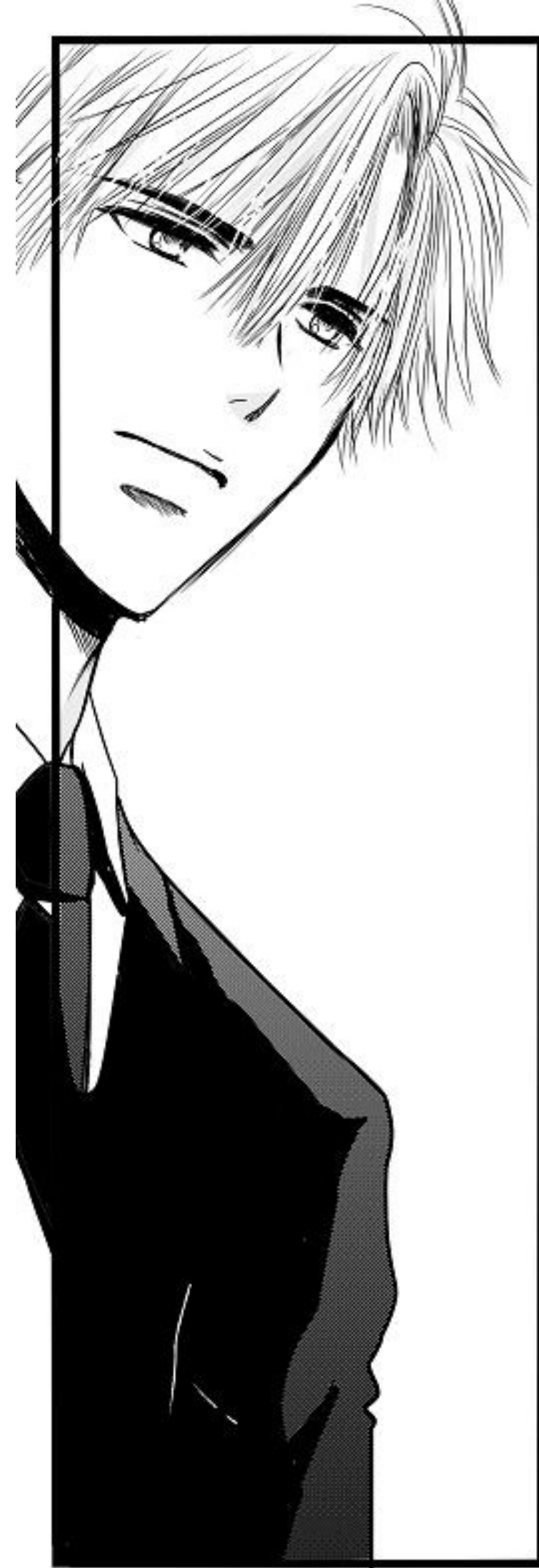
要と二人で  
当面生きていける金は  
振り込んでおいた



ここにいらなくても  
お前らの面倒は  
後見人としてみてやる

お前の用事が済んだら  
お前のもとに  
要を連れて行ってやる







お前を  
愛してる

だから

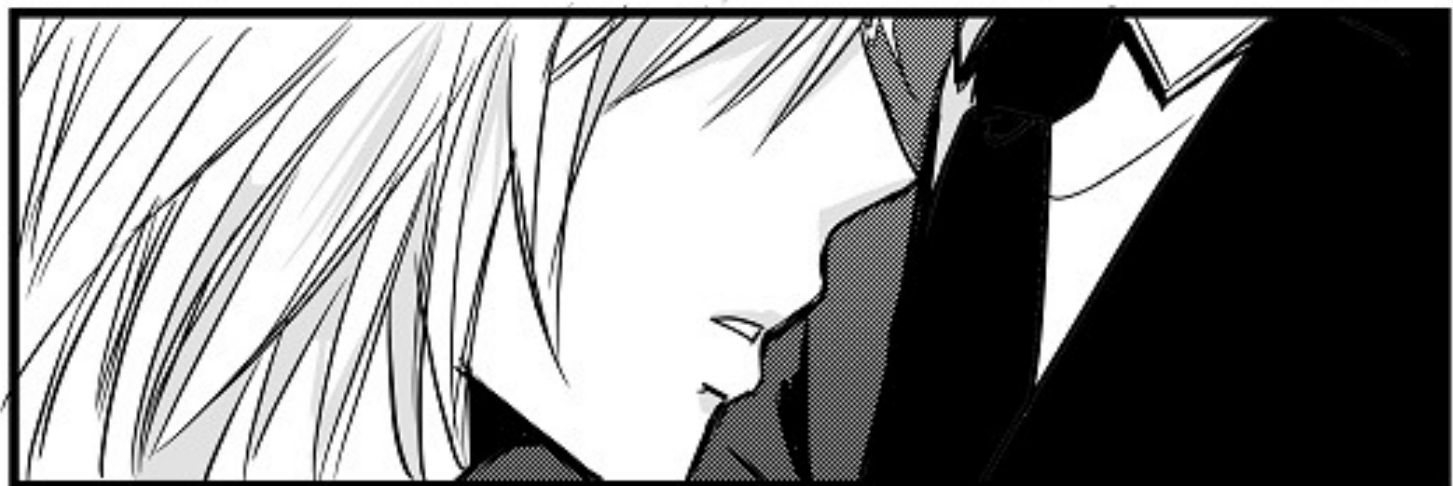
自由にしてやる

好きに  
生きていけ





俺はお前に  
笑っていて欲しい



叶？



・・・  
じゃあ哲也さんが  
僕を笑わせてよ



こんなに  
愛されてしまったら



僕は貴方のものだ  
必ず帰ってくる

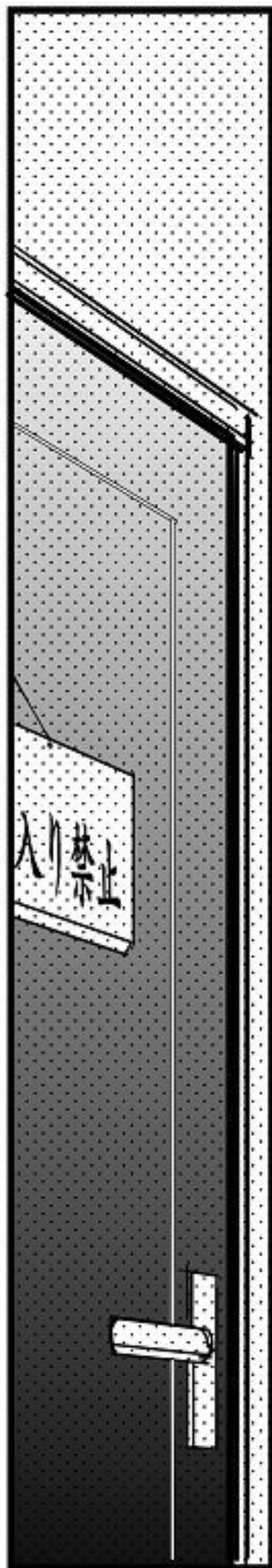
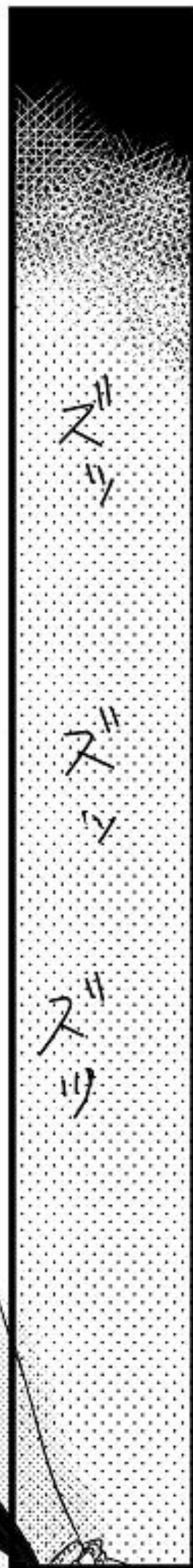


僕も貴方を  
愛してしまった



いつの間にか





いつから？

愛してた？

そんな言葉を交わす  
余裕もないまま  
気が付いたら  
抱いていた

必ずあなたのもとに  
帰ってくるから

かけがえのないものを  
手に入れた気になった

向けられた笑顔が  
可愛くて

帰ってきたら  
いつも  
あんな可愛い笑顔に  
させてやるんだと  
思っていた

要にも帰るから  
待っていてと伝えて

自由に  
歩いてうれいんだ  
一人で駅まで行く

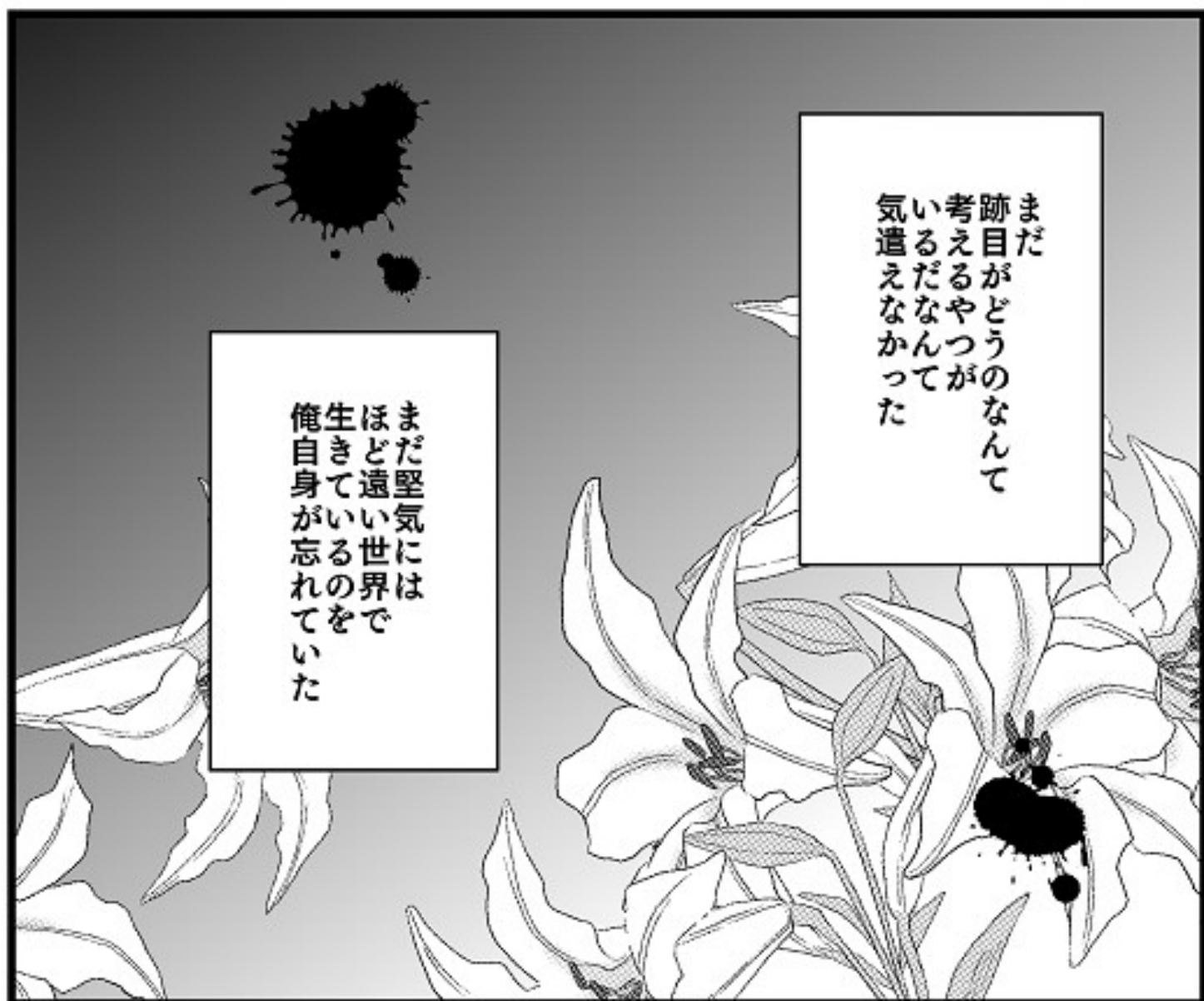


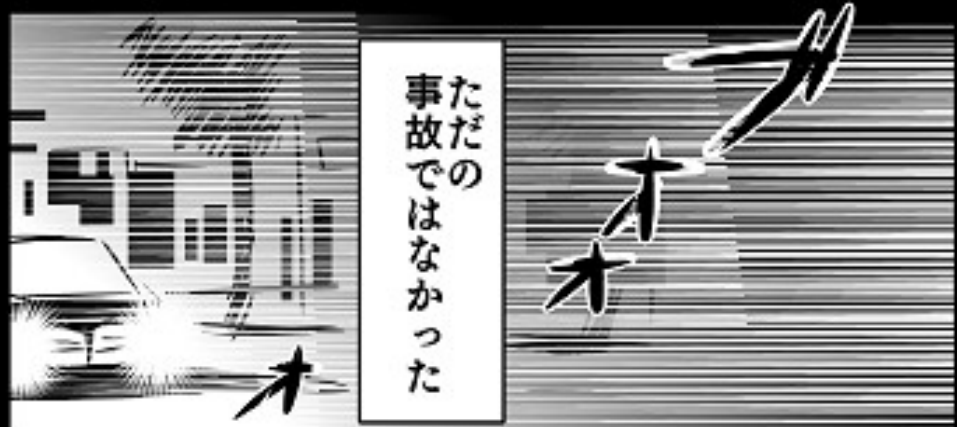
俺は叶の気持ちに  
のぼせていたんだろう

オヤジが死んだ  
ばかりだというのに

まだ  
跡目はどうのなんて  
考えるやつが  
いるだなんて  
気遣えなかった

まだ堅気には  
ほど遠い世界で  
生きているのを  
俺自身が忘れていた





ただの  
事故ではなかった

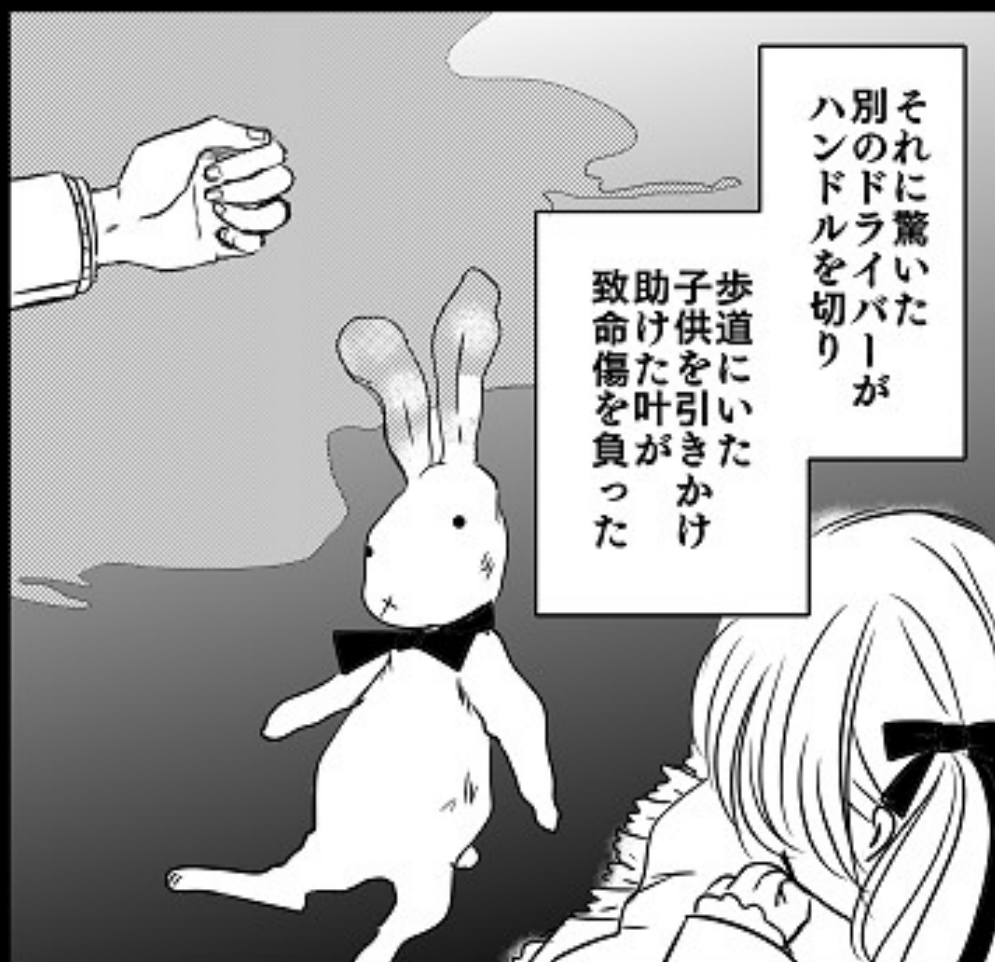


叶はその車を  
なんとか避けたが



かねてから俺を  
跡目にしていた  
一派が  
オヤジの遺言を知って

駅に向かう途中の  
葉を殺すつもりで  
信号無視をし  
突っ込んだ



それに驚いた  
別のドライバーが  
ハンドルを切り

歩道にいた  
子供を引きかけ  
助けた葉が  
致命傷を負った

次に会ったとき  
葉は臨終  
間際だった









哲也さん  
要をよろしく

二人とも  
僕の分も  
幸せに生きて



哲也さん  
あったかい

ズル



お前は要を  
自分の一部の  
ように愛し

要もお前を  
同様に  
愛していたけれど

俺にとって要は弟で  
お前は初めて愛した  
恋人だった

お前がいつも  
弟の幸せばかり  
願うから

俺が  
お前を幸せに  
したかった







俺がもっとお前を笑顔に  
させてやりたかった



でももう二度と  
叶は笑えない

なぜ俺はもっと  
早くとこちゃんに  
会わせて  
やらなかったんだろう



俺ならオヤジに隠れて  
会わせてやることぐらい  
できたんじゃないか？

どうして俺は叶を  
もっと早く  
素直に愛してあげられ  
なかったんだろう

叶……

お前が居なくなつて三年経ち  
ようやくお前の  
大事な思い出に向き合えた







大きな瞳から  
涙がこぼれた

この子は  
わずかな時間しか  
過ごせなかった  
叶のために

何度こうして  
泣いてくれたのだろう







俺は  
ケースバイケースだと  
答えた

そいつ次第だと

すべてを  
悲観するのも

わずかな時間でも  
居られて  
幸せだったと思うのも

思いは遂げられなくても  
同じ方向に生きられるのを  
幸せと感じるのも

個性だと

ちなみに俺は  
そばにいられるだけで  
幸せな清純派だともな



たとえ短くても  
未だ叶と  
愛し合った記憶が  
痛烈な痛みと  
幸福感を思い出させる



触れることが  
できない辛さと

手を伸ばせば  
触れることができる  
辛さもあるんだけどな



・・・てか



松田さん学生時代は哲也よりモテさらに勉強もできました♡



お前  
学生時代から  
俺の気持ちは  
ガン無視だな

お前俺の  
寝込み襲おうなんて  
考えでもしたら  
瞬殺後魚の餌になる  
覚悟しておけよ

妄想は自由だぜ  
哲也  
あんなこといいな  
てきたらいいなよ

まったく  
何でお前が  
俺の右腕やってんだ  
変態！

そりゃあ  
好きな男といれば  
乙女は自分を  
磨くってことよ

今は亡き君へ

君を悼みつつ  
俺は君と過ごせた  
愛しい時間を胸に  
今日も生きていきます

